

オリンピックメダリスト育成事業費

事業評価個票 (事業実施:平成 30 年度)					部局名	教育庁		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策5 文化・芸術、スポーツの振興						
	目的	オリンピック・パラリンピックなどに向けて、スポーツや文化・芸術を振興し、郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、地域の活力向上につなげる。						
	目標指標 (R2)	オリンピック・パラリンピックにおける本県からのメダリストの輩出		メダリスト輩出				
	策定時の実績	—	現状	0人(H29 平昌)	主要事業	スポーツの振興		
事業名	オリンピックメダリスト育成事業費			担当課・担当	スポーツ保健課(競技スポーツ推進室 競技スポーツ担当)			
事業開始年度	平成29年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	オリンピックに向け、選手の育成やサポート体制の充実・強化を図ることより、本県関係選手のオリンピックでの活躍、メダリスト輩出を目指していく。また、本県関係選手の活躍により、県民に大きな夢や希望を与え、県民の一体感を育み、郷土への自信や誇りを醸成にもつなげていく。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	(1) 平昌・東京オリンピックに向けた選手の育成 ・オリンピックでの活躍・メダルの獲得が期待される選手及び選手のサポートを行う競技団体の強化費等に対する支援 (2) 次世代のメダリストの育成 ・平昌・東京オリンピック以降を見据え、ジュニア期における系統的な指導体制の確立を図る競技団体の強化費等に対する支援 (3) アスリートを支えるスポーツ医・科学の充実強化 ・スポーツ医・科学の拠点「マルチサポートセンター(仮称)」の設置に向けた準備、アスリートチェックやトレーニングプログラムの提供 等							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:事業実施主体となる県体育協会、競技団体及び実行委員会に対して補助金及び負担金を交付することで、より効果的、効率的な事業執行が可能となるため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	オリンピック選手輩出プロジェクト		24,490	22,625				
	競技スポーツ強化戦略会議		3,248	3,196				
	競技スポーツ強化事業		54,917	53,644				
	スポーツ医・科学支援事業		10,662	22,319				
	駅伝競走特別強化事業		2,301	2,219				
	野球強化事業		1,310	1,270				
	オリンピック特別活動支援事業		18,000	12,500				
	県体育団体組織強化事業		5,700	5,700				
	競技力重点強化対策事業		3,652	2,196				
次世代アスリート育成強化		6,000	6,000					
計	0	130,280	131,669	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源		8,427	8,246				
	一般財源		121,853	123,423				
	計	0	130,280	131,669	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	オリンピック特別活動支援件数 ①個人 ②団体	活動実績	①人 ②団体	—	①:19 ②:3	①:11 ②:2		
		当初見込み	①人 ②団体	—	①:20 ②:3	①:15 ②:2	①:13 ②:2	①:13 ②:2
	成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
オリンピックメダリスト人数 (選手個人、競技団体の活動費等に対して、支援を行うこと、オリンピックでの本県関係者のメダリストを1人以上輩出する。)		成果実績	人	—	0	—		
		目標値	人	—	1以上	—	—	1以上
		達成度	%	—	0	—		
関連事業	・中学校体育振興費 ・高等学校体育振興費 ・スポーツ国際交流事業費 ・全国高等学校総合体育大会費							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

・2018平昌冬季オリンピック・2020東京オリンピックにおいて、山形県にゆかりのある選手が活躍し、メダルを獲得することは、県民に大きな夢や希望を与え、県民の一体感を育み、郷土への自信や誇りの醸成につながっていく。また、オリンピックが、地域のジュニア選手を育成することで本県のスポーツ推進を支える好循環を創出することができる。このことは、6教振「県民に元気と活力を与えるスポーツを推進する」を達成する一つの大きな事業である。
 ・本県にゆかりある全国トップレベルの選手を多数輩出することを目指すとともに、2020東京オリンピック以降の次世代のアスリート育成のために、本県独自のスポーツ医・科学を推進するセンターの設置に向けて取り組むことは本県のスポーツ競技力向上に不可欠なものである。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・「第6次山形県教育振興計画」では、「県民に元気と活力を与えるスポーツを推進する」としており、国民体育大会やオリンピック等の国際大会で本県にゆかりのある選手が活躍することは、県民に夢や希望を与え、郷土への自信や誇りを育むことにもつながる。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	・また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が次年に迫っており、本事業による本県にゆかりのある選手の競技力向上は、非常に重要な施策として位置付けられる。
	目標水準は妥当か。	A	・現在本県にゆかりのある選手には、世界選手権等で入賞する競技力をもっている選手もおり、2020東京オリンピックでのメダル獲得が充分期待できる。
	期待する成果が得られたか。	A	・H30はオリンピック開催年ではないが、支援対象の選手が世界選手権等で入賞しており、一定の成果が得られた。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	・整備した競技器具等は、現在も選手が有効活用している。
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・①は当初見込み15人に対し、実績は11人だったが、これは日本オリンピック強化指定・中央競技団体最上位強化指定を受けた選手(以下、「JOC等強化指定選手」という。)の数が見込みを下回ったためであり、要件を満たした選手全てに支援している。 ・②は当初見込み2団体に対し、実績は2団体。
	支出先の選定は妥当か。	A	・補助対象者は、①個人はJOC等強化指定選手とし、②団体は所属選手の指定状況や過去の大会の実績等を勘案して、外部有識者を含む「山形県競技スポーツ戦略会議」で選定した。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・県の補助金だけでは賅えず、強化費のほとんどは選手の自己負担となっている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	・補助金の使途は選手の直接的な強化に要する経費に限定しており、採択時の事業計画及び事業終了後の実績報告により確認している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	・県が選手や競技団体を直接指導することはできないため、本事業による手法が妥当である。
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	・オリンピックは教育庁、パラリンピックは健康福祉部という役割分担となっている。
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・選手が国体等に出るためには、県単位の競技団体(山形陸上競技協会、等)に所属しなければならないため、県が事業を実施する現在の形が妥当である。 ・また、本県には企業スポーツチームが4つしかなく、民間等で事業を実施することは不可能である。
今改善の課題等	・支援選手等の選定について、日本オリンピック委員会、中央競技団体の強化指定等の動向を注視し、適切に行う。 ・平成30年度は、スポーツ医・科学の面から選手等の支援を専門的に行う「マルチサポートセンター」を11月に県総合運動公園内で試行稼働した。令和元年度は、本格稼働の1年目であり、周知を含め機能充実へ向けて県スポーツ協会と連携し、関係団体との連動を更に密にし、競技力の向上に繋げていく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
 A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
 B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
 C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
 -: 該当しない